

## 百位から二十三位へ

榮 怜海

私は三年生から陸上をやっています。私は三年生の春に初めて県大会に出ました。その時の百m走のタイムは、十七秒台で、順位は百位より下でした。悔しすぎて、ふつうなら自分が終わったらチームのみんなの走りを応援したりするけど、それもできず荷物を置いているテントの下でひたすら泣いていました。

その日から私は、しんどい練習をする時も三年生の県大会で悔しい思いをしたことを思い出して自ら練習を二倍にしたりするようになりました。

そして、三年生の時に悔しい思いをした県大会が五年生の時にありました。県大会の前日はいけるという気がしていたけど、いざ県大会当日となると、きんちょうしてたり、三年生の時と同じになったらどうしようというネガティブな気持ちになっていました。だけど、コースの上たった時に、指導してくれたコーチや、練習を手伝ってくれた家族やチームの仲間に出たの走り感謝の気持ちを伝えようと思い、走りました。結果は二十三位でタイムは十四秒三、決勝まであと〇・〇三秒とどきませんでした。悔しかったです。だけどうれしさもありました。そして、そのとき努力は必ず報われるんだと改めて感じました。

私はこれから、今までと同じように、必死に練習をして決勝に残り全国まで行ける選手へ成長したいです。